

# 教師ノート

日付	2013年 8月25日
単元	使徒の働き・1
テーマ	全人類の救い
タイトル	すべての人の主
テキスト	使徒 10 章
参照箇所	使徒 11:1-18
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 使徒 10:36	
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます) <a href="#">小下 1 巻 3 題 12 課</a> 、 <a href="#">幼 1 巻 1 題 8 課</a>	

## メモ(情報・例話など)

「イエスを主と信じるものは、誰でも(人種にかかわらず)救われる」というのは神のみこころです。ペテロとコルネリオにそれがハッキリ分かるように、神ご自身が、幻を通して示してくださいました。ここには、神の綿密な配慮と深い計画が読み取れます。しかし、異邦人を汚れた食物に例えて啓示された点など、こどもたちに分かりにくい点もあります。主題をしっかりと伝えるために、必要なことを簡潔に説明できるよう心がけて準備しましょう。

## □導入

興味を起す質問をしましょう。

例:世界には色々な人種があるのを知っていますか? 黒人や白人もいれば、電気も車もない山奥に住んでいる民族や、教会も聖書もない小さな島で暮らす人もいます。イエスさまに愛されているのはだけでしょうか?

## □ポイント1 神さまが御使いをとおして、コルネリオに語られました(1-8節)

コルネリオは、カイザリヤという、地中海沿岸の大きな港町に住んでいる、ローマ軍の百人隊長(100人の兵で構成される部隊の隊長)でした。彼は異邦人でありながら、ユダヤ教の信仰をもっていました。

午後3時の祈りの時間(使徒3:1参照)に、いつものように祈っていると、御使いがコルネリオの名前を呼びました。単なる夢ではありません、これから起ることは、すべて神が導かれる実際の出来事です。心を見られる神は、コルネリオの忠実な信仰をご存知でした。コルネリオの普段の「祈りと施し」は、神に喜ばれ、受け入れられていたのです。神はコルネリオを通して、ひとつの計画を実行されるのですが、ここではまだ、その理由や目的は全く知らされていません。コルネリオは、信仰によって神に忠実に従う人でした。すぐに彼は、敬虔な信仰を持つ兵士とふたりのしもべたちに、すべてのことを説明して、ヨッパに遣わしました。

☞コルネリオの人格やその信仰の忠実さについては、2節と22節を参照してください。

☆こどもたちと一緒に考えてみましょう。もし、あなたに突然、御使いがあらわれて、理由も目的もわからない指示を与えられたら、どうしますか? 信じることができますか? 従うことができると思いますか?

## □ポイント2 神さまはペテロに幻を見せて、教えられました(9-29節)

(9-15節) 一方、神はペテロにも語られます。ペテロは保守的なユダヤ人キリスト者でした。彼は、ユダヤ教の祈りの習慣を守っていました。また、彼の異邦人に対する考え方の中には、ユダヤ人的な偏見が残っていました。彼は救われることができるのはユダヤ人だけで、異邦人は汚れているとっていました。ペ

テロは非常に空腹になり、うっとり夢ごちになりました。幻の中で、旧約聖書の律法に従って(ユダヤ人にとって)、食べてはならないものを含むたくさんの動物が見え、「ペテロ。さあ、ほふって食べなさい」という声が聞こえました(食物の規定については、レビ記11章参照)。イエスはペテロにも、「すべての食物はきよい」と教えられたはずですが(マルコ7:18-19)、彼はこれまで厳密にユダヤ人の伝統を守ってきたため、汚れたものを食べたことがなかったのでしょうか。彼は、正直に「それはできません。」と応答しましたが、「神がきよめた物を、きよくないと言ってはならない。」と言う声がありました。

(16-23節)それが3度続いた後、ペテロがまだその幻について思い惑っている時、コルネリオの使者が彼の所へ来ました。この時ペテロはまだ、彼らが神の導きによって来たことは気が付いていませんでした。そこで、御霊が、神が彼らを遣わしたということをお教え、ためらわず彼らと一緒に行くように促してくださいました。ペテロもそのことばに従いました。

(24-29節)コルネリオは、神が彼に語られたことの目的が明らかになることを、期待して待っていたでしょう。一方ペテロにとっては、異邦人の家に入って語り合うということは、ありえないことでした。しかし、このとき彼には、先の食べ物の幻の意味がわかっていたのです。彼は「どんな人のことでもきよくないと言ってはならないと神が示してくださったと言っています。

☞コルネリオが「友人たちを呼び集め」てペテロを待っていた態度に、彼の敬虔をみることができます。神さまが何かすばらしいことをしてくださるに違いないと期待していたのでしょうか。

☞一方ペテロも「私もひとりの人間です」と、謙遜な態度をとっています。ペテロも私たちも、神のあわれみによって生かされている者です。どんなに用いられても、このような態度を忘れてはいけません。

### □ポイント3 ペテロは神様の救いの計画がはっきりわかりました(30-48節)

コルネリオが自分の見た幻について語りました。ペテロは、それを聞いて、一連の出来事をおして、神が何を語っておられるか、さらに明確に理解する事ができました。ペテロは、「神はかたよったことをなさらず…イエス・キリストはすべての人の主です」ということをまず語りました。それから、福音を解き明かしました。ペテロが語っているうちに、異邦人にも聖霊の賜物が注がれ、洗礼を受けました。他のユダヤ人クリスチャンはそのことに驚きましたが、ペテロはもはや驚きませんでした。これが神のみこころであることを確信していたからです。

□結論 神さまは、イエスさまを信じる人は世界中のだれでも救われるということをお、幻を通してペテロに教えて下さいました 暗唱聖句を読み上げます

### □適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1)イエスさまは、すべての人の主です！そして世界中のみんなを愛してくださっています。まだイエスさまのことを聞いたことがないお友だちが、世界にたくさんいます。その人たちのために祈ろう！あなたは、その人たちに福音を届ける人になりたいですか？世界中の困っている人にイエスさまの愛を伝える人になりたいですか？

例2)あなたは、「学校のお友だちが、イエスさまの十字架と復活の話を信じるはずがない」、「言ったってどうせ分からないよ、バカにされるだけだ」、なんて思い込んでいませんか？ペテロも、そのような固まった考えを持っていましたが、幻を見て変えられました。自分の思い込みで、神さまのなさること小さくしてしまっはいけません。あなたも「イエスさまの十字架は、みんなのため」ということが、しっかり分かるようにお祈りしよう。特に、「あいつはキライ」というような偏った考えを捨てましょう。

例3)(まだ信じていないお友だちへ)イエスさまの十字架は、みんなのためです。みんなイエスさまが必要なのです。あなたにも十字架の愛が必ずわかります。信じて求め続けましょう。